日本ブルーノ・ワルター協会会報　第1号

1971年 8月

〒166

編集発行人　菅　一

「第一回研究用録音資料刊行」

当協会では、結成以来これまでに開かれました例会の席上で、旧吹込レコードから実況テープにいたる数々のワルターの珍しい録音を、会員諸氏に鑑賞して戴いて参りましたが、「現在入手不可能なワルターの録音を、研究資料として配布して欲しい」という声は、ますますたかまるばかりでした。協会では、ブルーノ・ワルターを心から敬愛し、ワルターの演奏を通じて、真の音楽芸術の探求に努める真摯な音楽愛好家の熱望に応じて、研究用録音資料を刊行する事に決し、今年五月左記のLP二枚を作製、会員に配布しはじめました。

A　実況録音（BWS－一〇〇一）

シューベルト　交響曲第八番「未完成」（一九六〇・五・二九）

J・シュトラウス　「ジプシー男爵」「ウィーンの森の物語」「蝙蝠」（一九四七）

B　スタジオ録音（BWS－一〇〇二）

ハイドン　交響曲第九六番ニ長調「奇蹟」

交響曲第百番ト長調「軍隊」

オーケストラは何れもウィーン・フィルハーモニーです。

此の中、シューベルトの「未完成」交響曲は、一九六〇年五月二十九日に、ウィーンで開かれた「マーラー生誕百年記念祭」に於ける実況録音です。演奏に先立って、ワルターの挨拶が聞かれるのは、有意義であり、また楽しい事です。会場内の騒音、人々の話声、楽員の調絃等が聞えるのも、雰囲気を盛立てています。

尚、此の時に左記の曲目も演奏され、また録音も遺されています。ソプラノ独唱は、全てエリザベート・シュヴァルツコップによるものです。

マーラー　交響曲第四番

〃　「子供の不思議な角笛」より

トランペットが美しく鳴響くところ

〃　菩提樹の薫る部屋にて

〃　我は此の世に忘れられて

是等の録音も、機会を見て、研究資料として配布する予定です。

J・シュトラウスの三曲は、一九四七年のエディンバラ音楽祭に於ける演奏です。また同じ時に演奏された、シューベルトの「ロザムンデ」序曲の録音も遺っています。

尚、此の年のエディンバラ音楽祭で、一つの大きな出来事が起りました。それは、ワルターがマーラーの「大地の歌」を演奏した時に、アルトのパートを歌ったのが、キャスリーン・フェリアーだったのです。その人選は、イギリスの指揮者エイドリアン・ボールト卿の紹介と推薦によるものでしたが、ワルターは、かってのロッテ・レーマンに対するが如く、フェリアーの豊かな才能と高い芸術性にすっかり心酔し、また歓喜しました。其の後、ニューヨークやザルツブルクに彼女を帯同し、或る時は指揮棒を取り、或る時は自らピアノを弾いて、協演を行ったのでした。一九四八年十月八日、ワルターがニューヨーク・フィルを指揮して、「大地の歌」をカーネギー・ホールで演奏した時が、フェリアーのアメリカに於けるデビューでした。一九四九年に、マーラーの「亡き児を偲ぶ歌」を、一九五二年に、同じくマーラーの「大地の歌」を、ウィーン・フィルとの協演により演奏した録音が市販されているのは、会員諸兄先刻御承知の事と思います。

スタジオ録音によるハイドンの二曲は、「奇蹟」が一九三七年五月頃、「軍隊」が一九三七年十二月頃の録音ですが、夫々我が国でも発売されたものと同じ録音です。但し、日本ブレスから音を採ったのではありません。何れも、HMV盤から音を採りました。従って、音色の艶や、ハーモニーの明澄度、またフォルテの迫力等、日本ブレスのSPレコードより優れています。因みに、日本ブレスは、「軍隊」が昭和十四年十月新譜として、また「奇蹟」は昭和十五年六月新譜として、発売されました。当時、既に戦時態勢強化に伴う物資不足の結果として、盤質の劣悪化が始っていました。

研究用録音資料の配布や、諸文献の引用等が附帯する、当協会の全面的な活動に関し、ワルターの親族や諸関係筋におかれましては、当協会の性格や目的及び真意を御賢察下さり、また暖い御理解と御協力をたまわります事を心から期待してやまない次第です。

「例会の記録」

日本ブルーノ・ワルター協会の記念すべき第一回例会は、一九七〇年九月二十七日（日）午後、東京銀座四丁目、山野楽器店、五階ホールで開催されました。当協会の輝しき将来を約束する様な、見事に晴れ上った美しい秋空が印象的な日でした。

先ず最初に、結成発起人代表菅一から結成趣意の説明があり、続いて、宇野功芳氏は、「家族的結合から脱却して、大きく発展して欲しい。」と、激励の辞を述べられました。次いで、川上剛太郎氏により、米国ブルーノ・ワルター協会の事業の内容が紹介され、同協会第一回発行のモーツァルトの歌劇「フィガロの結婚」（ワルター指揮）、シゲティ演奏によるバッハ及びベルクの協奏曲（但し伴奏の指揮は、ワルターでなくミトロポロス）のレコードの一部が演奏されました。

それから、一九三六年二月二十日に演奏された、ワルターとウラディミール・ホロヴィッツの協演によるブラームスの第一ピアノ協奏曲（管弦楽団はアムステルダム・コンツェルトヘボー管弦楽団）の録音を鑑賞しましたが、この演奏は、正に驚天動地の名演です。

当時ワルターは、ウィーン・フィルの正指揮者で、典雅できめ

の細かい演奏傾向を持っていましたが、此の録音では、実に素晴しい迫力と情熱、強烈な緊迫感を見せて居ます。勿論、ワルターらしい円満さ、おおらかさ、上品な優美さも随所に見られます。若きホロヴィッツも、実力を十分に発揮した熱演で、二人の協演は、まさに此の世のものではありません。共にペストを尽しながら、而も呼吸の合った名協演なのです。宇野功芳氏は、「バックハウス・ベームの名演以上の名演」と激賞されました。

その後で、当協会のあり方、将来の方針、事業の方法及び形態等等、全ゆる面に関する討議が行われ、忌憚の無い意見がかわされ、意義のある例会となりました。その意見の多くは、既に協会の運営に、色々な形で反映し、また今後も反映し続ける事でしょう。

尚、此の例会の席上で、ワルターの愛嬢ロッテ・リント夫人（Mrs Lotte Lindt）が、一九七九年の夏に、スイスで他界されたというニュースが、京須氏からもたらされました。これで、ワルターの肉親は、孫を除いて、全員此の世を去って了った事になります。

此の記念すべき第一回例会の出席者氏名は左の通りです。（五十音順、敬称略）

宇野功芳、梅野幸一、岡堂勝行、尾本敬明、遠田守利、川合四朗、川上剛太郎、京須偕充、菅　一、辻山誠一、豊増　翼、永尾　隆、水元　寛、　以上十三名。

◇　◇　◇

第二回例会は、同年十一月七日（土）、同じ場所で開催されました。出席者十五名。

此の例会は、一貫して演奏の鑑賞に終始しました。

1. モーツァルト　歌劇「イドメネオ」序曲
「コジ・ファン・トゥッテ」序曲
ベルリン国立歌劇場管弦楽団

このレコードが録音されたのは一九二五年です。旧吹込最後期のもので、想像よりも良い録音で、美しい弦の響き、力強い低音や木管楽器の美しい音色が聞かれます。四十八才のワルターの演奏は、既に彼のモーツァルト演奏様式を確立させている様に聞きとれます。

2　ブゾーニ　ヴァイオリン協奏曲
アドルフ・ブッシュ（独奏）、アムステルダム・コンツェルトヘボー管弦楽団（一九三六・三・十二）

ワルターが現代音楽を無視した様に思うのは誤解です。マーラーやブフィッツナーの曲を紹介し続け、ショスタコヴィッチの第一交響曲のヨーロッパ初演をベルリンで行ったし、また、サミュエル・バーバーの第一交響曲の演奏の録音も遺されています。ブゾーニは、ピアニストとして有名ですが、前衛的な作曲家としても名を知られています。

ワルターとブッシュとの親交は長年月にわたって続き、共に真摯な芸術家として尊敬し合いました。

3　J・シュトラウス　喜歌劇「ジプシー男爵」序曲
円舞曲「ウィーンの森の物語」
喜歌劇「蝙蝠」序曲
ウィーン・フィルハーモニー
一九四七年エディンバラ音楽祭

ワルター、ウィーン・フィルのコンビのJ・シュトラウスの作品で市販されたレコードが、「皇帝円舞曲」だけだった事は残念な事でしたが、この録音が現れた事は正に旱天の慈雨です。特に「ジプシー男爵」が、市販された三種類の別の録音を遙かに凌駕する絶品です。

4　モーツァルト　交響曲　第四十番ト短調K・五五〇
ベルリン国立管弦楽団（一九二九）

ベルリン国立管弦楽団というのは、ベルリン国立歌劇場管弦楽団が、コンサート活動を行う時の別名です。イギリス・コロムビア盤で聴くと、日本プレスで聴くよりも、ずっと音が豊かに聞えるし、第一楽章冒頭のヴィオラも明瞭に聞きとれます。同じ曲の別の録音に較べると、冷い情熱や強烈な淋しさが聴者の胸を打つところが特徴です。

5　J・シュトラウス　円舞曲「維納気質」
喜歌劇「蝙蝠」序曲
ベルリン国立管弦楽団（一九二九）

この二枚は、ワルターの最初のJ・シュトラウスの作品の録音で、殊に「ウィーン気質」は、J・シュトラウスの最高権威である事を実証した最初のレコードでもあります。ヴァイオリンに、一斉にポルタメントをかける箇処など、真にやるせない美しさがあります。貧弱な録音ながら、管弦楽団に威勢をつける為に、ワルターが掛声をかけるのが、三、四回聞えるのは御愛嬌です。

6　モーツァルト　ピアノ協奏曲ニ短調K・四六六
マイラ・ヘス（ピアノ）ニューヨーク・フィルハーモニー（一九五六・三・四）

一九三七年五月に、ウィーンで録音した同曲のSPレコードでは、ワルターはピアノと指揮の両方を受持って居ますが、此の録音では指揮に専念して居ります。両方を受持つ時と、他人をピアニストに迎えて、指揮だけを行う時と、演奏がどう違って来るかを研究する事は興味深いと思います。

マイラ・ヘスとワルターは、晩年に屢々コンビを組んで、モーツァルトのピアノ協奏曲を演奏しましたが、可成り良いコンビだった事が此の録音からも窺えます。

ニューヨークの冬の寒さは非常に厳しく、三月初旬にはまだまだニューヨークの聴衆の中には風邪を引いた人が多い様です。そのせいで、咳をする聴衆が多勢います。また、第二楽章と第三楽章の間で拍手をする人が居ます。その拍手が、此の録音を聴く者の緊張を一瞬和らげるのは、愛嬌のあるハップニングです。

因みに、市販されているモノーラルのモーツァルトの第三十九番と「ジュピター」交響曲（ニューヨーク・フィル盤）のレコードの録音の前日の演奏です。

◇　◇　◇

第三回例会は、一九七一年一月三十日（土）に同じ場所で開催。出席者三十二名。アメリカ西海岸のオーケストラを指揮した録音に中心が置かれました。

モーツァルト　アイネ・クライネ・ナハトムジーク
サンフランシスコ・シンフォニー

此の曲は、ワルターの得意な曲の一つで、市販されたレコードだけでも四種類ありますが、サンフランシスコ・シンフォニーとの珍しいコンビによる演奏というのが、此の録音の「ミソ」でしょう。サンフランシスコ・シンフォニーの弦がどれだけ美しく響くかが、興味の的となります。此の管弦楽団は十分その期待に答えて呉れます。

R・シュトラウス　交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快な悪戯」
ロスアンゼルス・フィルハーモニー

アメリカで一流の下、または二流の上と考えられるこの管弦楽団は、実演に於ける迫力をみなぎらせるワルターの熱演に見事に相呼応して、素晴しい力演を聴かせて呉れます。ワルターが演ずる此の曲の録音が、市販のレコードで聴かれない不満を、一挙に解消する事が出来ます。

ウェーバー　歌劇「オベロン」序曲
サンフランシスコ・シンフォニー

ワルターはウェーバーの歌劇の演奏が得意で、「魔弾の射手」「オイリアンテ」「オベロン」を度々上演した様ですが、レコードでは、今迄「魔弾の射手」の序曲しか聴かれませんでした。それ故、この録音が遺されていたのは望外の喜びでした。得意のウェーバーを演ずるワルターは、サンフランシスコ・シンフォニーを自家薬籠中のものにして居ます。

ブラームス　ヴァイオリン協奏曲　ニ長調
独奏　ジノ・フランチェスカッティ
ニューヨーク・フィルハーモニー

ブラームスの作品は、ワルターの得意中の得意ですが、協奏曲に関しては市販レコードに恵まれず、複協奏曲以外のものが無いのは残念です。それでも、二曲のピアノ協奏曲はホロヴィッツ、マイラ・ヘスとの協演による実演録音が発見され、ヴァイオリン協奏曲はこのフランチェスカッティとの協演によるこの録音が見つかりました。相不変シンフォニックな演奏で、コンチェルトと言うよりも、ヴァイオリンを伴う交響曲と言った方が適切な感じで、如何にもブラームスらしい演奏です。

最後に、目先の変ったところで、ワルター、ウィーン・フィルの音色がHMV盤と日本コロムビア盤では、どう異るかを実験してみました。此のホールには、SPの再生装置が無いので、ハイドンの「軍隊」交響曲の両盤を、同じ条件でテープに録音し、それを再生して出席者諸氏に聴いて戴いたのです。結果から言えば、その差異は想像以上に大きく、日本プレスが劣悪な事をすっかり証明して了ったのでした。先ず音色の艶とシャープさが段違いです。高音の伸び、低音の響き、ハーモニーの明澄度、フォルテの底力、ピアニッシモの魅力、ダイナミックの迫力等、全てに於いてHMV盤が優り、極端な言い方をすれば、日本プレスによって育まれた私達のワルター、ウィーン・フィルに対する観念は根底からくつがえされたと言えましょう。ワルターが〝女性的〟と言われた時期が長く続きましたが、（之は私達は否定し続け、現在ではその様な誤った考え方をする人は少くなりましたが）それも、この日本プレスの音を聴いて居ると、そんな気持になるのも無理は無い事なのかも知れません。この実験により、大多数の出席者はその差異の大きさと、HMV盤の優越性に驚いたのでした。けれども、多勢の中には意見の異る人も居て、曖昧模糊とした角の取れた柔い響きに郷愁というかワルター・ウィーンらしさを感じる人も居たのは興味ある事実でした。此の実験が、当協会の第一回刊行の研究用録音資料の中に、ハイドンの「軍隊」と「奇蹟」が入れられる大きな動機となったのです。

◇　◇　◇

第四回例会は、同年六月二十七日（日）に、同店六階会議室で開催。出席者　十八名。

先ず、今年五月に当協会から刊行された研究用録音資料内容の録音データが発表されました。是は、諸般の事情により、ジャケットやレーベルに印刷する事を差控えたもので、当協会会員にのみ種明しがされる事になったものであります。それからレコード会社から近い将来に発売される、ワルターのレコードの紹介が行われました。

テイチク　　ワルター、ワグナー名曲集（一九二六―三二）
　　八月二十五日発売
CBSソニー　ブラームス　ドイツ・レクィエム
　　（一九五五年頃）　九月二十一日発売

鑑賞曲目の第一は、
バッハ　「マタイ受難曲」（第一部の前半のみ演奏）
　　（一九四一年）

これは、米国ワルター協会が第三回発行レコードとして「マタイ」を選んだ事に因んだもので、云わば予告編とも言うべきもの。このレコードの録音年月日が一九四三年四月十八日とされていますが、それが事実ならこちらのテープは別の録音であると言えましょう。

一九四三年と云えば、ワルターが初めて「マタイ」を全曲カット無しで演奏した年ですが、米国ワルター協会のレコードの録音はその時のものかも知れません。然し、LP二枚ですから、全曲ではなく多分第一部だけではないかと思われます。

モーツァルト　歌劇「フィガロの結婚」序曲　NBC交響楽団
ヴァイオリン協奏曲第三番
（独奏　ヨーゼフ・シゲティ）

「フィガロ」は最晩年の演奏（一九六一年三月）とは、曲の把握や解釈が大層異っていますが、それに優るとも劣らぬ名演奏です。ヴァイオリン協奏曲も超名演で、どれ程演奏傾向に差があろうとも、シゲティとワルターの協演が、常に名演であるのには全く驚かされます。共に高い音楽性と深い芸術性を持ち、お互いに心からの尊敬を払い合いながら演奏するからでしょう。全く他の人達の演奏とは、次元が違う事が明瞭に看取出来ます。まさに、厳粛な精神美が特徴と言えましょう。（一九五一年録音）

マーラー　「菩提樹の薫る部屋にて」（一九六〇・五・二九）
（独唱　エリザベート・シュヴァルツコップ）

これも、「未完成」と同じく、マーラー祭に於ける演奏の録音ですが、マリア・イヴォーギュンの弟子だったシュヴァルツコップは、ワルターの孫弟子に当ります。此の頃の彼女は、自然さと

ナィーヴな感情表出、声の色艶も豊富で、実に安定しています。
新入会員諸氏の中から、以前の例会で技露された珍しい録音の中から、何かを選んでリヴァイヴァルさせて欲しいと云う御要望があったので、二曲程選び、それに別の録音を加えて、左記の曲を鑑賞して戴きました。

J・シュトラウス　円舞曲「ウィンナ気質」
喜歌劇「蝙蝠」序曲
ベルリン国立管弦楽団（一九二九）
円舞曲「ウィーンの森の物語」
喜歌劇「ジプシー男爵」序曲（一九二九）
（英国録音用臨時編成）交響楽団

「ウィンナ気質」を除けば、当協会刊行による研究用録音資料（BWS一〇〇一B）の内容と同じ曲目ですが、夫々の曲目の演奏録音の中で、最も古いものを集めたものです。一九四七年の録音に聞かれるワルターの解釈と、一九二九年のワルターの解釈の差異は、会員諸兄に恰好の研究材料を提供するでしょう。

――珠玲仁雅――

◎協会結成以来、早くも一年に近い月日が経った今、初めて会報を会員諸氏にお届けする事が出来る様になりました。協会の性格、目的を考えると、もっと早く会報を発行するべきだったと反省して居ます。そして頻繁に発行しなければならないと考えて居ます。第一号は、単なるニュース程度の内容しか盛込む事が出来ませんでしたが、第二号からは、もっと巾広く、また質的にも次元の高い内容を持った充実したものにして行きたいと思います。そうして会員諸氏の研究の発表の場として、利用して戴きたいと思います。論文、未発掘の資料、ワルターに関するエピソード等々、ワルターに関するものなら何でも結構です。どしどし御投稿下さい。私達の会報は毎号同じ様な形式で編輯されなければならないという理由は一つもありません。その時その時の内容によって、形式は自由にしておきたいと思います。

◎我々の協会では、録音資料の製作・頒布は重要な事業である事は勿論ですが、それは必ずしも最終目的ではありません。会員諸氏の系統的・組織的なワルターの演奏や解釈の研究のためもっと多種多様な活動を行うべきです。特定のテーマを定めた研究会や討論会、モーツァルトのオペラや、ベートーヴェンの「ミサ・ソレムニス」や第九交響曲等々の大曲の鑑賞会等を例会以外に開催するのも一つの方法でしようし、論文集の出版等も興味のあるサブジェクトです。この様な催しの計画を実行するには、一人や二人の力では出来ません。どしどし催しを計画し、実行に移し、イニシャティヴを取る方が多く出現して下さる事を期待して居ます。また、此の様な催しに関する提案をどしどしお寄せ下さい。

◎私達の目的の一つには、ワルターの偉業の次代の世代への継承があります。従って、若きワルター研究家の積極的な加入を希望します。その一つの方法として、会費分割納入の制度を採用したいと思います。尤も協会側で細則を設ける事は致しません。数種類のパターンを作ってみても必ずしも実情にマッチするかどうか判らないからです。従って、次の様な方法を考えてみました。希望者は具体的、現実的、且つ実現可能な会費分割納入計画を二部作製し、署名捺印の上、協会事務所に御郵送下さい。検討の上受理致します。あとは忠実に履行して下されば良いのです。
尚、当分の間、此の制度は学生諸氏及び三十才以下の若い社会人諸氏に限定致します。

◎今年六月に、録音順によるワルターのディスコグラフィーを発表致しました。現在迄に十頁分が刊行されています。残りは資金が出来次第、刊行致します。「ステレオ芸術」誌十月号には、作曲者別による、ワルターのディスコグラフィーを発表予定です。

◎第六回例会は、十一月下旬又は十二月上旬に開催予定です。より深い意義を持たせる事が出来る様な新鮮なアイディアをお持ちの方は、遠慮なくお申出下さい。

◎米国ワルター協会から配布された、モーツァルトの「ドン・ジョヴァンニ」（ワルター指揮）及び、ヴァイオリン協奏曲第三番（シゲティ、ワルター、NBCシンフォニー）は、アメリカ西海岸で起った「港湾スト」の影響で到着が遅れています。悪しからず御了承下さい。

◎八月二十五日に、テイチクから、ワーグナーの作品を演奏したワルターのレコードが発売されましたが、録音データが明記してありません。当協会がつきとめた録音データを、此処でお知らせしたいと思います。（去る六月に刊行したワルターのディスコグラフィーを御参照下さい。）

「さまよえるオランダ人」序曲　ロイアル・フィル（一九二六）
「タンホイザー」バッカナール　ロイアル・フィル（一九二六）
「名歌手」第三幕への前奏曲
ブリティッシュ交響楽団（一九三二）
「神々の黄昏」ラインへの旅　ロイアル・フィル（一九二七）
「パルジファル」第一幕前奏曲　ロイアル・フィル（一九二七）
「　同　」転景の音楽　ロイアル・フィル（一九二七）

◎九月二十一日に、CBSソニーから発売される、ブラームスの「ドイツ・レクィエム」の録音年月日が判明しました。
一九五四年十二月二十日、二十八日、二十九日です。

◎私達の会報の内容をより充実したものに、また次元の高いものにする為の皆様の御意見、御提案、また御投稿を鶴首して待って居ります。